

平均寿命の伸びと高齢者像の変化 (p13)

【平均寿命は、平成の 30 年間に約 5 年以上、2040 年にかけても約 2 年伸びる見込み】

1990（平成 2）年に男性 75.92 歳、女性 81.90 歳であった平均寿命は、2019（令和元）年までの約 30 年間で約 5 年以上伸びて男性 81.41 年、女性 87.45 年となった。今後の約 20 年間でも約 2 年伸び、2040（令和 22）年には男性 83.27 年、女性 89.63 年になると推計されている。

【2040 年に高齢者となった男性の約 4 割が 90 歳まで、女性の 2 割が 100 歳まで生存するとみられる】

平均寿命は 0 歳児の平均余命であるため、新生児死亡等の影響を考慮すると、実際には平均寿命よりも長く生きる人が多い。

厚生労働省政策統括官付参事官付人口動態・保健社会統計室「人口動態統計」によると、1989（平成元）年において死亡数が最も多かった年齢は男性で 79 歳、女性で 81 歳であったが、2018（平成 30）年においては男性で 85 歳、女性で 91 歳となっている。

また、1989 年、2019 年、2040 年の各時点で、65 歳である人が 90 歳、100 歳まで生存する確率を見ると、1989 年においては男性の 22%、女性の 46%が 90 歳まで、男性の 2%、女性の 7%が 100 歳まで生存するとされていたのに対し、2040 年においては男性の 42%が 90 歳まで、女性の 20%が 100 歳まで生存するとみられる。

さらに、海外の研究では、2007（平成 19）年に生まれた我が国の子どもの半数が 107 歳より長く生きるとも推計されている。これらのデータから、「人生 100 年時代」が本格的に射程に入ってきていることがわかる。